



NPO 法人みどりのゆび

会報 平成29年(2017)第2号7月発行



こころ浮き立つさわやかな季節です。
フットパスで心も体も爽快にリフレッシュしましょう



ご挨拶

会報をやっとお届けできます！遅くなって本当に申し訳ありませんでした。「まだ？」「まだ？」と何人もの方々に言われてそんなに待っていてくださるんだな、ありがたいと思いました。

新しい企画がいくつか始まりました。

東京フットパス 以前から町田以外の東京都内のコースを歩いてみたいと思っていましたが、やっと始めることができました。20年前、フットパスを町田小野路で始めた頃を思い出しました。自分がいいなと気になっていた「みち」を、改めて何度も下見してフットパスとして作り上げていく、この過程が一番の醍醐味なのです。尾留川さんが導入したGPSで航跡を地図上になぞることができるアプリのおかげで、20年前よりは楽にフットパス・マップができあがります。「東京フットパス」は毎回人気があり、いくつか溜まったら、またマップ本にしたいと考えています。田邊さんの「江戸・東京フットパス」も歴史好きな方に特に好評です。

里山の秘密基地-みどりの親子探検隊 この度、理事になってくださった小林道正さんは国立青少年教育振興機構で野外教育活動をされていた専門家です。これによって「みどりのゆび」は子供向けのイベントを開催できるようになりました。昨年の夏には「森の忍者学校」を恵泉女学園大学のご協力のもとに行いました。丸太の上を歩いたり、木登りやロープにぶら下がったりして忍者の修行をして、さらに木の枝を使って「色えんぴつ」のクラフトを作ってお土産にしてもらいました。参加された10組ほどの小学生と親御さんを初め、恵泉の学生からも「参加してみてよかったー」と感動のご意見をいただきました。今年は「里山の秘密基地づくり」と名称を変えて小野路の宿緑地で活動します。ぜひ、皆様のご家族、お孫さん、お友達にもご紹介いただけますようお願いいたします。

先日、吉祥寺のフットパスを歩きました。さすがに「住みたいまちナンバーワン」だけあって、まちの作り方(行政がまちの中心に商店街をつくり大型を周辺に配置)や、市民のなにげなく自然で、しかし深い地域社会へのかかわり方、など、時間をかけ本当によく仕上がったまちだと思いました。「住んでみてよかったまち」に共通しているのは、市民の意識の高さが行政を押し上げて両者がよくあいまってまちをアウフヘーベンしていることだと感じました。私たちがフットパスで目指しているものは「こういうこと」なのだと思えました。

(神谷 由紀子)

フットパス・イベント(1月～5月)

詳細はホームページの多摩丘陵フットパス・ウォークへ掲載

【初歩き天満宮がらくた骨董市と原町田散歩】

1月10日(火)天候:晴 参加者:8名

今年の初歩きは天満宮がらくた骨董市と原町田です。ガイドは森口さんと高見澤先生。がらくた骨董市は毎月1日が開催日ですが、1月は10日開催のためフットパスも10日火曜日実施です。集合は、小田急町田駅。南側、町田駅前通りを東へ。宝永堂裏から地下通路で横浜線をくぐり原町田一丁目駐車場を迂回して宗保院裏へ。宗保院の境内を抜けます。宗保院の山号は「金森山」。かつてここは原町田ではなく、金森でした。少し歩くと天満宮の鳥居へ到着。鳥居の内側の参道から境内いっぱい露店が連なります。扱っているものは、骨董から、民族もの、貴石や化石など幅広く、見ているだけで時を忘れてしまいそうです。昼まで楽しんで、昼食は近くのイタリアン「ルーチェ」で。それぞれお好みでピッツアやパスタ、プレートなどを注文。ワイングラスを傾けながらの食事でした。

午後は、初参加の方もいらっしゃったので、勝楽寺納骨堂内で三橋國民氏の作品を鑑賞、着物と小物の和多屋さんに立ち寄り、昭和のおもかげを今も残す一方、若い方達が出店する「仲見世通り」を覗きながら、ゴールの茶舗老舗土方園へ到着。二階のカフェでゆったりとお話をした後ゆるゆると解散しました。

(尾留川 朗)



【栄村冬の事前味噌づくりと雪の Footpath】

2月4日(土)5日(日)天候:晴、曇 参加者:3名
冬晴れの中、電車とバスを乗り継いで、一泊の長野県栄村フットパスツアーです。今回は、事前味噌づくり体験とスノーシューを履いて山でチーズフォンデュのランチを楽しみます。越後湯沢駅からバスに乗り50分、到着したのは宮野原駅。駅舎のすぐ横に日本最高積雪地点の碑が建てられています。積雪はなんと7.85m 栄村フットパスの名前が、「7.85FOOTPATH」の名称もここからとられたそうです。

「あいあい」こと信州アウトドアプロジェクトの樋水愛ちゃんと合流。彼女の運転で一路味噌づくりのお宅へ。到着すると外の釜では既に大豆が茹であがっていました。いざ味噌づくり!!ではなく、まずは仕事の前の腹ごしらえと、母ちゃん自慢の手料理をたらふくいただきました。

いよいよ味噌づくり。ゆであがった大豆をつぶし、塩、米麴を加えます。少し豆の形が残る適度なところで味噌玉に。それを桶にたたきつけ作業終了。出来上がりは半年後とか。楽しみです。味噌の仕込みが終わったので今度は酒付きで料理をいただきます。すべてが手作り感満載!!ごちそうさまでした。この日は、三国集落の民家を改修したゲストハウスで一泊。屋号は「となり」。地元の皆さんといろりを囲んでのキノコ入り鴨鍋の夕食です。こちらも美味。ごちそうさまでした。

翌日は曇。さかえ倶楽部スキー場脇からスノーシューを履いて雪のフットパス。途中のナラの樹上高くにナラタケが…手が届かず採集断念。最後は見晴らしの良い丘の上で、雪を掘りテーブルと椅子に仕立ててチーズフォンデュをいただきました。もちろん白ワインと。心地よい屋のひとときでした。充実した二日間でした。あいちゃん、栄村のみなさん、ありがとうございました。(尾留川 朗)



【行方フットパス『雛まつりフットパス』】

2月26日(日)天候:晴 参加者:5名
今年も「なめがたフットパス実行委員会」主催の行方フットパス『雛まつりフットパス』に行ってきました。この日のコースは、午前は玉造コース、午後は麻生陣屋コースです。

玉造コースは初体験です。このコースは霞ヶ浦大橋のもと行方市観光物産館をスタートして、梶無川(かじなしがわ)を遡上し玉造地区に入ります。玉造地区には、街道沿いに古い街並みが残り、小高い丘の方面へ向かうとかつての山城・玉造城を背に代々水戸藩の山守を務めた、大山守大場家が復元され公開されています。いったん休憩の後、ここを発って背後の山、玉造城跡を大きく回り込み梶無川へ戻ってきます。梶無川の名の由来は、緩やかな川なので舵が無くても下れる川の意とと思っていましたが、実は全く逆で、かつて増水時は急流で、その急流に舵が流されてしまったことに由来するとのこと。現在からは全くイメージできませんが。梶無川の右岸は未舗装で霞ヶ浦を眺めながら、ゆったりと歩いて気持ちのいい道です。河口近くまで来ればスタート地点は目と鼻の先です。

午後はこれまでも歩いたことのある麻生陣屋コースです。霞ヶ浦畔の「あそう温泉白帆の湯」をスタートに霞ヶ浦畔を歩き、城下川河口の水門を右手に見て渡り麻生の街に入っていきます。麻生地区は麻生陣屋があることからわかるとおり、武家の街だったそうで、現在も地方裁判所や検察庁の支部が置かれています。この見どころは、この時期の稚児行列と麻生陣屋のつるし雛、商店のショーウィンドウに飾られたお雛様です。しかし私は、帰り道、麻生小学校裏から海了寺へ抜ける路地、海了寺の裏手から羽黒山公園へ抜けるみちがお気に入りです。行方は茨城といっても南部ですので、意外と近いですね。帰りには霞ヶ浦産の佃煮、行方産の野菜をどうぞ。(尾留川 朗)



【フットパス専門講座：東京江戸フットパス】

3月4日(土) 天気：晴 参加者：10名

講師：田邊博仁(NPO 法人「みどりのゆび」)

今回は、野川&国分寺崖線の成城学園から江戸の面影を残す喜多見地区を歩きました。今回は、千歳烏山駅から吉祥寺駅へと歩きました。

まず、昔の世田谷の農家の面影を残す「北烏山九丁目屋敷林」と世田谷百景の一つの「烏山つつじ緑地」をめぐるしました。次に、関東大震災後の復興事業として、浅草などから集団移転した国内でも珍しい26もの多くの寺院が集まる世田谷の小京都・烏山寺町を歩いてみました。いくつかの特徴ある寺院、麦切り寺とか喜多川歌麿の墓のある寺、旧鍋島侯爵邸のある寺院、湧水池のある寺院などを見て回り、ランチは素敵な一軒家でいただきました。

午後は、淀橋浄水場の廃止後、空堀になって荒廃していた玉川上水を清流の流れで復活させ、両側に気持の良い小径が造られた「玉川上水緑道」を歩きました。「どんどん橋」から「とんぼ橋」までは10箇所の橋と玉川上水の清流の景観を楽しむことができました。番外ですが、吉祥寺のハモニカ横丁の味わい探索も楽しみました。

(田邊 博仁)



【小野路桜フットパス】

3月25日(土) 天気：晴 参加者：15名

毎年恒例の小野路の桜フットパスです。今年も少し早めに3月下旬に設定したら、開花宣言は早かったのですが、その後冷え込み、里山もまだ寝ぼけていて微笑みも少なく、桜は一分咲きにもならず、2年続けて桜が見られませんでした。来年は4月に設定しようと反省。

今回のお昼は久しぶりに小林さんのところで、文重さん、小林政江さん、小宮房子さんという懐かしい方たちのおもてなしをお願いすることができ、地粉のうどん、赤飯、煮しめをいただけて、15名の参加者の方々もその意味では満足していただけたと思います。久々に昔のように農家のおふるまいをいただくことができ、私たちも文重さんたちとともに楽しい時間を分かち合いました。政江さんが、新しい農園を開いてイチゴなどを作ってくださいそうで、また、小野路は楽しくなりそうです。これからもこのような交流の場をときどき持つように企画していきます。(神谷 由紀子)

【小野路里山交流館行事～桜の小野路めぐり～】

4月4日(火) 天気：晴 参加者：15名

講師：田邊博仁(NPO 法人「みどりのゆび」)

毎年恒例の小野路里山交流館行事の小野路の桜めぐりでしたが、残念ながら小野路の「ソメイヨシノ」は未開花でした。下堤の「エドヒガンサクラ」は少し早めに咲き、約3cmの小さな桜が満開でした。多摩市になりますが恵泉女学園大学から一本杉公園への桜並木の「ソメイヨシノ」がちょうど咲きだし見頃でした。昼食は、小野路里山交流館で地粉のうどん定食と手作りコロッケをいただきました。

午後は、小野路城址の「豆桜」を見て、奈良ばい谷戸へ出て解散しました。解散後、オプションとして、五反田谷戸の「畦桜」へ行ってみました。未開花でしたが見ごたえがあり、みなさま、感動してらっしゃいました。樹齢200年と言われるヤマザクラです。映画「蝉しぐれ」のロケーションに使われた老桜・場所です。(田邊 博仁)



【柴田町里山、さくらフットパス】

4月11日(火)12日(水)天候:雨 参加者:5名
槻木入間田フットパス編

4月11日昼に東北本線船岡駅集合 駅前のホテルに荷物を預け、今回のコーディネーター柴田町地域おこし協力隊北浦さんの車と、昼食をいただく「かかしのいっぽんあし」斉藤さんの車で入間田地区へ。入間田は東北本線槻木(つきのき)駅の北西方向の愛宕山の麓に広がる田園です。車が着いたのは今日オープンのかかしのいっぽんあし「かえるのあぐら」。古民家をおしゃれにリニューアルしてアクティビティの拠点となる施設です。実は今回のツアーに合わせてオープンをお願いしたところ、ご快諾いただいた結果でした。引き戸を開けて屋内に入ると広い土間と高い天井で開放感があります。上がり框を上がり、襖を開けると明るい外光が注ぎ込む大きな窓の和室が二間続きで広々しています。お庭の景色を眺めながら食事できるようにテーブルが配置されています。出された食事は地の食材をつかい、あくまで地の料理に仕上げられています。しかし、味は洗練されていて、おもてなしは丁寧です。既に準備は整っていたようで、これから外国人向けにPRしていく方針だとのことでした。さらに宿泊もできるように検討しているので面白さも倍増しそうです。

食事後は、「かかしのいっぽんあし」がスタートとゴールになる入間田フットパスコースを歩きます。円龍寺に向かう途中にはフキノトウの群落が広がり、円龍寺から八雲神社をとおって愛宕山中腹にある天然記念物「雨乞のイチョウ」までの沿道にはカタクリが咲いており、気持ちの良い草の道も多く、遅い春を楽しみながら歩きました。「雨乞ユズ」を栽培、加工されている加藤農園でひと休み。ユズの甘皮の甘煮、ユズ茶などをご馳走になりました。その後は、真っ直ぐ南下して五斗亀集落を通り、スイセンが咲き誇る道を「かかしのいっぽんあし」まで帰りました。沿道の花々は地元の方が全て自ら植えて、手入れをされており、昔から当たり前のように行われているそうです。頭が下がります。

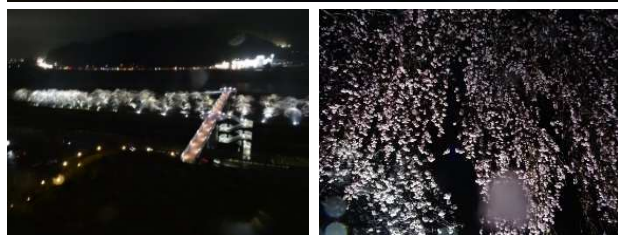
(尾留川 朗)

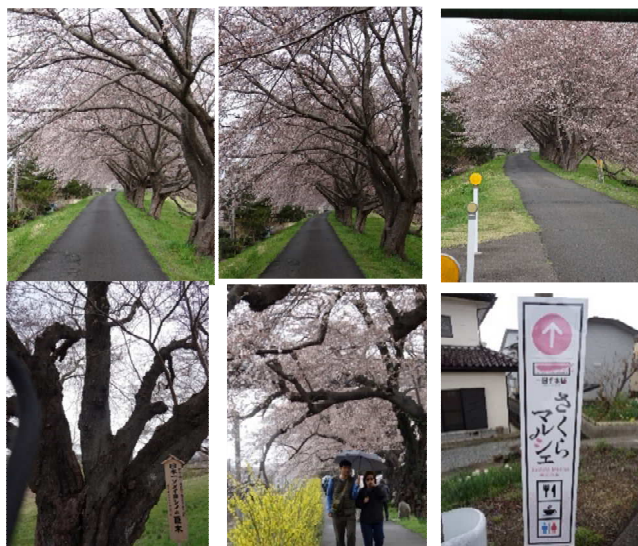


船岡夜のフットパス編

JR 船岡駅前のホテルから「夜のフットパスコース」へ出発。船岡城址公園の桜のライトアップと地元の居酒屋での食事コースです。今回は大雨のため、北浦さんの車で船岡城址公園へ。ここの「枝垂れ桜」の夜桜の見事さは、たとえ大雨の中でも見る価値が大有りなので、是非見て欲しいところです。ライトアップは例年通りで明るく照らされていますが、公園には人っ子一人いません。まさに貸し切り状態です。私たちだけでゆっくり堪能しました。

次に居酒屋「和が家」へ。旬の肴と地酒をゆったりいただきました。和が家のあと、男三人は、隣の「モービーディック」へ。気さくで物知りのマスターの蘊蓄を聞き、同じラベルのスコッチで現在のものと30年前のものとを飲み比べするという体験を愉しみました。(尾留川 朗)





白石川一目千本桜、船岡城址編

翌4月12日(水)朝9時に船岡駅集合。今日は柴田町主催のさくらフットパスに参加します。朝の時点での開花は一分から五分咲き。空は曇りです。コースは駅から白石河畔に出てさくら歩道橋で川を渡り左岸を下流へ。さくら船岡大橋で右岸へ渡り返し戻ってきます。さくら歩道橋を通り越して船岡城址公園千桜橋の袂、「さくらマルシェ」までの約9km。参加費は千円ですが、お弁当付きの上、500円のマルシェ利用券付き。歩く前から儲かった気分です。案内人は前地方創生対策室長で現柴田町まちづくり会社専務の平間さん。

早速白石河畔左岸を歩くと、陽当たりのせいか右岸に比べて花が咲いています。また、この辺りのソメイヨシノは比較的新しく木に元気があります。下流に進むほど木は土手の道に覆いかぶさり、最後には土手の両側に植えられた桜がトンネルに... 気温が上がって、朝よりも目に見えて開花が進んできます。2kmほど歩いてさくら船岡大橋を渡ります。右岸を上流へと歩いていくと日本一のソメイヨシノの大木に出会います。そして、さくらマルシェに到着。さくらフットパスはここで解散。

さくらマルシェは、4月生まれたての柴田町まちづくり会社が運営するお店です。三陸のカキとぬる爛の柴田の地酒2種で乾杯。川俣地鶏で出汁をとった温麺もいただきました。

このあと桜いっぱいの船岡城址公園と城下町を歩きます。千桜橋からは桜並木越しに蔵王連峰を臨み、城址公園では昨夜大雨の中、ライトアップに浮かび上がっていた枝垂れの昼の顔を鑑賞、レンギョウの並木を城下へ向かい、まずは、パティスリー「TANTO」で昼のデザート。思い思いに桜を表したケーキを注文し、ホットとひと休みの後、城下町を散策。恵林寺の桜は満開。隣の大光寺五百羅漢をお参りして、駅近くの仙台屋菓子舗でくるみ柚餅子、くるみ雁月を求め、馬上かまぼこでは笹かまを。仙台経由で帰路に着きました。

(尾留川 朗)



【精進湖・山中湖フットパス&フォーラム】

4月16日(日)ー17日(月) 天候:晴、雨 参加者:5名
精進フットパス編

4月16日 昨年度から「みどりのゆび」でフットパスコースづくりをお手伝いしている精進フットパスイベントへ参加しました。今回は、当会の神谷と東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所の齋藤先生の声掛けで山中湖の方々と2日間のタイアップ企画です。参加者は、我々のほか、北海道エコネットワークの皆さん19名も参加した大所帯です。

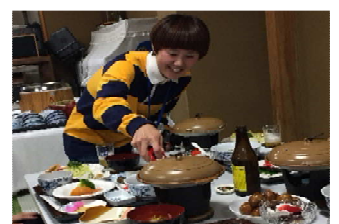
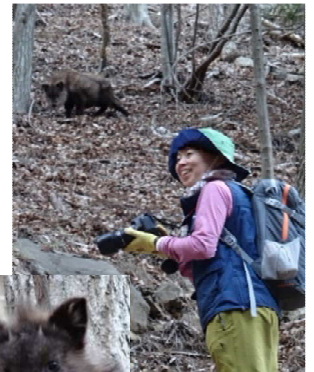
到着早々、齋藤先生、山中湖の中村さん達と待合せた精進湖畔のレストラン「ことぶき」で昼食です。地モノや季節ものを取り混ぜた特製プレートと自家製厚揚げステーキのランチ。事前をお願いしておくいつも工夫を凝らした料理を出してくれます。

食事の後は、羽田空港から駆け付けた北海道組と合流して、フットパスの開始。今日のコースは精進湖畔県営精進駐車場からパノラマ台を目指す片道約4kmのルートです。ガイドは富士河口湖町地域おこし協力隊の岡田さんとキャンプ場を運営されている山田さんのお二人。前日までの天候がうそのような快晴。富士山も常に姿を現して歓迎してくれていました。ブナの混じる雑木林を途中休み休み登り、約二時間半でパノラマ台へ到着。ここからは、眼前に広がる富士山の威容とともに富士五湖のうち山中湖を除く四湖が望め、特に河口湖、西湖、精進湖の三湖は、かつてはつながっていたことを実感させる光景です。

この先そのまま進むと、烏帽子岳を經由して本栖湖へ降りられます。富士を正面に見ながら、庭園のようなミヤコザサの光景や、沙羅の大木、馬酔木の花の林など見どころたくさんなのですが、今日は時間の関係で断念。来た道を戻ります。と、山が気の毒に思ってくれたのか、はたまた精進の岡田さんの力か、ニホンカモシカの子が待っていてくれました。昨年春に生まれた子の子のようです。逃げる気配も見せず、三十人もの目にさらされても興味深げな眼でこちらを見ていました。

この日は、かつて青木ヶ原樹海の中に造られた精進民宿村の樹海荘さんで一泊。夜は、当会理事小林さんが天体望遠鏡を持ってきてくれて、木星や春の星座などを丁寧に解説してくれました。翌朝は、朝食の前に精進湖畔の樹海を散策。貞観の大噴火の溶岩の先端を歩くことができます。溶岩流も一回ではなく波状的に何度も押し寄せたことがわかります。それにしても苔の美しいこと...

(尾留川 朗)



山中湖フットパス&フォーラム編

4月17日 二日目は山中湖へ移動して歩きます。まずは、山中湖北岸の長池地区。今は湖岸から少し奥まったところにある集落ですが、昔はすぐ目の前まで水面が迫っており、山の麓を通る集落の道が主要道だったとのこと。

その集落の道を歩き、昼食をごちそうになる羽田(はた)さんのお宅の奥へ。ここが中国秦の時代に日本に渡って来た徐福の墓と伝えられる場所。羽田さんもその関係者の末裔だとか。そこを登り背後の山へ分け入ると、山神の祠が...山中地区は、かつて山仕事と馬喰を生業にしていたところ。そのため、多くの山神様や馬頭観音が祀られている。羽田さんのお宅は、現在では数少ない茅葺屋根の家屋。兜造りの屋根で、精進も含めこの辺りでは切妻造りはほとんど見かけない。

提供される食事は長池でかつて食べられていた料理を中心に、羽田さん達が再現したものがメイン。トウモロコシ粉を使った団子汁など今では食べられなくなった料理も多い。今回は、鮭の開きのつけ焼きも供されていました。以前はわかさぎ漁の網にかかった鮭などの雑魚を開いて、干して保存し、つけ焼きにして食べていたそうです。少し苦みがあって酒のあてにうってつけです。今では、手間がかかるのと理由で小売りはしていないそうです。

食事の後は、安産祭りで有名な山中諏訪神社へ。安産祭りは夜の幽玄な雰囲気で行われるので、昼に来るのは初めてです。神輿が練る境内を多くのヤドリギが取り囲んでいました。ここから、湖岸の国道から一本入ったかつての街道を歩きます。三十三観音や庚申塔などが沿道に配置され、イチイガシの大きな生垣の屋敷など古い屋敷地が散見される通りです。少し歩くと口止め番所跡。ここまでが山中の宿場だったとのこと。

午後3時から、今回のもう一つの柱「富士五湖フットパスフォーラム」でした。みどりのゆび、エコネットワーク、山中中村さんなどの活動報告の後、フットパスについて聴衆も加わってワークショップを実施。報告を聞いたあと、フットパスやその活動についてディスカッションを行いました。「①教えて欲しいこと。②印象に残ったこと。③期待したいこと。④不安なこと。などの4点をカードに書いて意見交換しました。参加した一員として有意義なひとときでした。

(尾留川 朗)



【雑司ヶ谷～本郷東大フットパス】

5月7日(日) 天候:晴 参加者:24名

念願だった東京のフットパスを始めることにしました。東京のガイド本は山ほどありますが、本当に心惹かれるコースはなかなかありません。どんな人が歩いて「よかった！」と思っただけのようなフットパスをこれから探していき、最終的にはまたマップとしてまとめて発行したいと思います。

第一回は、神谷が娘の学校のある池袋の雑司ヶ谷から「いいなあ」と思った緑のみちをどんどん探検していたら本郷の東大まで着いてしまったというフットパスです。無理やり歴史のコースとか文人ゆかりのコースなどと頭で考えて作ったコースではありません。気持ちのいいみちに体を任せて歩いていたら、そのみちは時代を超えて昔から人々が歩いていた、この地域の地形や環境や歴史が自然に作り出した一番気持ちのいいみちだったのです。みどりのゆびのフットパスはすべてこのようにできていて、これが私たちのマップがロングセラーとして未だに何万部も売れている理由かもしれません。

ということで、この「雑司ヶ谷から本郷東大まで」コースの一番の売りは、川と台地の織り成す自然の地形のままに作られた道路や街が歴史を経てそのまま今に生き残っていることを体感できることでしょう。文京区には景勝地が多いこと、あちこちに昔のよすがが残っていること、文人を惹きつけたまちであった理由もここにありとします。また、武家や寺は台地の高い所に、庶民や神社は川沿いに住んできたこともいまだに残る区画の様子から大変よくわかります。

今回のコースも以上のことをしっかり感じられるフットパスです。

池袋は弦巻川の源泉であった丸池など、池がたくさんあったので池袋と呼ばれるようになったようですが、この弦巻川に沿って進むと雑司ヶ谷になります。この辺は江戸の町と郊外の堺のあたりで農地が広がり、八代将軍吉宗のお鷹場でした。また川沿いに先に進むと護国寺になります。五代将軍綱吉が母の桂昌院のために創建した徳川家の祈願寺です。綱吉も吉宗も家康の曾孫です。徳川家の最も勢いのある時代の舞台だったわけですね。弦巻川の流れはそのまま護国寺の参道となりここに音羽の町が栄えました。これが春日通りです。

春日通りの谷から小石川台地上ると「教育の森公園」があります。元山藩(現在福島県郡山市)の上屋敷の跡に建てられた旧東京教育大学跡地に開園された文京区の公園です。この屋敷の庭園は占春園という江戸三名園の一つでした(現在台風で荒れた庭の手入れ中に入れませんが



した)。この台地から谷端川に降りると対岸の白山台地に小石川植物園があります。綱吉の屋敷(白山御殿)でした。谷端川は白山通りになりました。

この辺は土地柄かビストロが多く「ルメール」で昼食。午後は白山通りを渡っていよいよ本郷台地へ。西方町は、幕末の老中阿部正弘の屋敷があったところで、東大に近いために学者が多く住んでいました。その後一度、菊畑があったという菊坂の谷にあります。ここからいくつもの坂や文人の住居跡を通して本郷台地の中心地、前田藩屋敷跡の東大に到着しました。その前に皆で350年続く金魚の卸問屋の営業する「珈琲金魚坂」で豊かなひとときを過ごしました。東大の赤門から鉄門に抜けて、本郷台地の端にある湯島天神までいき、解散しました。10km以上の長距離ウォークでしたが、楽しいコースで皆さん最後まで気持ちよく歩いていただきました。(神谷由紀子)



【つくばフットパス】

5月14日(日) 天候:曇 参加者:13名
つくば駅に9時15分集合。筑波山口バス停から歩き始めます。ガイドは筑波大学教授の前川先生。今日のコースは「筑波山麓フットパスコース」。往路は、ここ筑波山口からサイクリングロードの「りんりんロード」を通り、途中「燧ヶ池」、「飯名神社」、「月水石神社」を経由、筑波山神社裏参道「西山通り」から筑波神社へ向かいます。復路は、参道、「つくば道を」辿り、途中右折して「稲葉酒造場」を経由して、出発地の筑波山口バス停へ戻る、約9.5kmのコースです。

さすが筑波の地とあって、そこかしこに石仏、石碑が沿道にあります。途中立ち寄った、「飯名神社」、「月水石神社」などもご神体が磐座なことがはっきりとわかり、常陸國風土記にあるとおり古くからの信仰と文化の地であったことがそこかしこに窺えます。境内へ入ると、事前に前川先生が依頼されていたガイドの方へバトンタッチ。境内をじっくり案内してくれました。

食事は、行列必死の手打ちそば店「みだ」へすんなり入って舌鼓。続いて、造り酒屋の「稲葉酒造場」ですべて本生の純米大吟醸、純米吟醸、しぼりたて純米利き酒セットをいただきました。歌垣の地つくばの浮き立つ気分とともに...

(尾留川 朗)



【筑北村フットパス】

5月27(土)、28日(日) 天候:晴、曇 参加者:5名
筑北村は長野市と松本市の間に位置し、古くは善光寺街道として栄えたのどかな田園風景が広がる明るく開けた谷間の村です。今回は町営とくら温泉に一泊して筑北村を2日間楽しめます。

1日目【坂井コース】JR 篠ノ井線冠着(かむりき)駅 11:45着。ネコ駅長によるお出迎えの後、「そば処さかい」にて地元産のそば粉を使った手打ち蕎麦を堪能。ここから麻績川沿いに里山と谷間に広がる美しい水田の織りなす新緑と風情豊かな社寺を巡ります。コース距離は約3.5km。

コース上の諏訪大社の分社である安坂神社では、大社と同じく御柱祭が行われ、薙鎌(なぎかま)が大社(上社)から授与されています。また、朽ちそうな建物の阿弥陀堂脇には、マリア様のような三十三観音が安置されており、対面すると誰でもが心安らくお顔です。そのほか、源義経由来の馬頭観音など、筑北も多くの石仏を擁しています。

3時のお茶は法案寺で地元の方の漬物、煮物をいただき、夕食は地元の方の手づくり地元料理で心尽くしのおもてなしをいただきました。

(尾留川 朗)



2日目【青柳宿から碩水寺まで山あいの里を歩くコース】

朝、車で北アルプスを一望でき、運が良ければ雲海が見られる絶景ポイントへ行く予定でしたが、あいにくの曇り空。雲海は次回訪問時に期待して、かわりに、群青に染まるダム湖と北アルプスを遠望する地点へ。こちらもなかなかの景色です。そして今日の本番、筑北村の地域おこし協力隊の大場さん、飯田さんの企画で、月に1~2回開催される「ちくほく朝さんぽ」に参加して、地域の人と一緒に北アルプスを眺めながら善光寺街道を歩きます。

スタートは坂北体育館。ここから善光寺街道の宿場「青柳宿」の下から宿場の坂を上がり一方の外れ、峠の大切通しまで歩き、続いて、里山を通って曹洞宗の古刹「碩水寺」へ。ここからは、北アルプスを遠望しながら中村沢に沿った集落の道を歩き中村神社がゴールです。

環境教育関係

さとやま秘密基地づくり

—親子自然体験活動—

昼食は近くの西条の田屋集会所にてみなさん総出で自慢の筑北米おにぎりに、信州の味たけのこ汁、朝摘みの山菜の天ぷらを作っていただきました。食後には、「四阿屋こだま太鼓」のお披露目。懐かしの南京玉すだれも演じていただきました。ありがとうございました。

午後は、昼食会場から、町営戸倉温泉の湯元に立ち寄ってから、東条川に板を渡しただけの橋を渡り、善光寺街道西条宿を歩きます。こちらは、開けた田園の風景で、赤松山がそこかしこにあります。そういえば、筑北村は松茸の名産地と聞いています。次は、松茸料理とフットパスも良いかもと想像しながら歩きました。

帰りには、みんなに筑北米のプレゼント。一泊二日と短い時間でしたが、筑北のみなさんの心尽くしのおもてなしに参加者からは「大満足。是非また来たい!!」との声が上がっていました。筑北村のみなさんありがとうございました。

(尾留川 朗)

子どもたちの健やかな成長と郷土を愛する心情を育むために、小野路の豊かな自然の中で自然体験活動や交流体験活動などを行う「親子自然体験会・里山の秘密基地づくり」を開催することになりました。

年間を通して4回開催しますので、季節によって変化する植物や動物(昆虫など)の様子を観察したり、畑で作物を育てて食べたりするような活動も予定しています。その他に木の枝や葉っぱなどを使って、遠くまで飛ばしたり大きさ比べをしたりするゲームの「里山あそびリンピック」で楽しみます。

恵泉女学園大学の先生や学生ボランティアの皆さんに協力していただきます。日程と活動予定は冊子後半の「スケジュール」をご覧ください。



【第1回目】

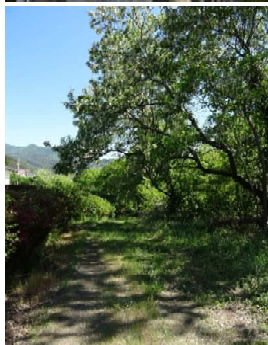
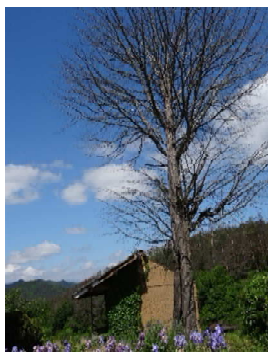
5月21日(日) 天候:晴

残念ながら参加者が集まりませんでした。広報の仕方がまずかったと反省しています。2回目はたくさんの人に参加してもらえるように頑張ります。準備していたサトイモの種芋をスタッフの皆さんで植え付けました。1ヶ月後の様子を見てみると、順調に育っています。

作業後には、小林政江さんのイチゴ畑にお邪魔して[イチゴ摘み]を楽しみました。

(小林 道正)

6月の里芋畑の様子



フットパスに関する取材、視察、コンサルタントほか

【高知県日高村 小野路来訪】

1月14日(土) 高知県日高村から地域おこし協力隊中元さんがフットパスの勉強に小野路に来訪されました。日高村は高知市の西16kmに位置し、人口約5,000人、面積44km²の村です。この日は、小野路宿コースをご案内し、途中小島資料館で小島先生の話聞き、小野路宿里山交流館で昼食の後、小林宅のストーブ小屋で文重さんと歓談。たらふく餅をごちそうに。夜は町田泊まりとのことなので、奄美料理の店で一献傾けながら意見交換を行いました。これから日高村フットパスが始まります。(尾留川 朗)



【鬼無里村 小野路来訪】

1月19日(木) 長野県鬼無里村の方々が町田のフットパスを見学に見えました。鬼無里村では今年からフットパスコースづくりに入られるそうで、既にコース案をお持ちでした。鬼無里村は、現在は長野市と合併し村ではありませんが、やはり鬼女紅葉伝説の村であり、鬼無里ではなく鬼無里村でないということと呼称として使われています。

ご案内したのは小野路宿コース。途中恵泉女学園大学の澤登先生が実習農園にいらっしゃり、霜にあたった白菜を食べさせてくれました。普段は食べない白菜の芯の甘さに皆びっくり。白菜談義で盛り上がりました。昼食は交流館のうどんとコロケ。皆さんコースの価値を体感されたようで、6月にセミナーとワークショップを開催予定とのことでお招きを受けました。また新しい地域でフットパスが始まります。(尾留川 朗)



このほか、3月6日(月)産能大古賀ゼミ生、10日(金)山梨大大山ゼミ生。佐賀大戸田ゼミ生が研修に訪れています。(尾留川 朗)

【長野県筑北村 小野路来訪】

2月25日(土) 長野県筑北村のみなさま(約30名)が来られ、小野路宿フットパスコースをご案内しました。筑北村は、長野県中央、標高600mにあります。バスから降りて来られた皆さんは分厚いコートを着ているので「おや?」と尋ねたら「朝出発の時は-8°Cだよ!」とのことでした。胸には「ちくほく朝さんぼ」の大きな丸いバッジをつけて、元気な方々でした。

「日本の里山百選」に東京都で唯一選ばれた小野路宿は、里山地形である谷戸に田と畑が広がり、鎌倉古道を初め、徳川家康の御尊棺御成道、布田道が通っています。江戸時代の宿場だった小野路宿をご案内し、早春の里山を歩きました。

昼は小野路里山交流館にて「地粉うどん定食」をみんなで頂きました。筑北村では舗装された道を歩くことが多く、「東京に来て土と落ち葉の小径を歩けるとは思わなかった」と驚いていました。

筑北村は「地域おこし協力隊」を中心にフットパスを活用した村の活性化を進めているので、こちらから5月27、28日に訪ねる予定です。(田邊 博仁)



【宇都宮大学高橋教授の来訪】

3月1日(水) 宇都宮大学地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科の高橋教授と同僚の方が小野路のフットパスを視察に見えました。目的は宇都宮の地域づくりのためにフットパスが活用できるかの可能性を調査するそうです。いつものコースをご案内し、里山交流館で山崎館長を交えて意見交換をして、その後、小林さん宅のストーブ小屋でお餅をご馳走になりながら情報収集してもらいました。宇都宮における適用の可能性を十分に感じて頂けたようでした。(尾留川 朗)



フットパスに関する視察

【奥播磨訪問】

3月18日(土)翌日の19日(日)に開催される「たにウオーク」のために、兵庫県宍粟市波賀町谷集落を前日入りました。奥播磨夢倶楽部の春名理事長と和井事務局長のご案内で、一足早く現地を視察させていただきました。「たに」の名の通り、揖保川の支流の引原川のまた支流です。南北に流れる「谷川」の山に囲まれた自然のままの集落で、三峯神社の高台から見た景色は掛け値なしの絶景です。「谷村おこしの会」の森本会長を初め、自治会長、教育長、農園オーナーのそうそうたる皆様方が、普通では残っていない畑や林の中の古い街道を案内してくださいました。

なんといっても圧巻は、段々畑の縁に延々としっかり残っている古い街道です。今これほどの状態で残っている街道は他にないと思います。しかも村人に愛され、何気なく使用されながら残っているのです。生活の中に街道が残っているのです。何にもないような田舎に、だからこそではありますが、誰をも感激させるようないいみちが残っているのは、本当に嬉しい限りです。

また、ご自分では気づいていないけれど感性の高い多くの人材、昔ながらの姿に残されている景観、古都に近く奥深い歴史と文化、トンビの背中が見える丘などという古い地名、など魅力がいっぱいです。

やっぱりこの地域は、関西都市圏から微妙な距離にあり、古都のよすががよく残るこれからの着地型の観光の一つの中心地になるところだと思います。(神谷 由紀子)



翌3月19日(日)「谷ウオーク」本番の日です。昨日下見で神谷さんが伺った谷集落の「谷公会堂」に集合。午前はこちらを出発点に谷川と引野川との合流点を形作っている尾根を越え、引野川側の溝野集落を回り込んで引野川沿いを歩き谷公会堂へ戻る約3.4km、高低差約100メートルのルートです。

尾根の両側の急斜面には杉が植林され、尾根の突端にある三峯神社からの尾根筋には落葉樹が広がっています。当日ガイドしていただいた黒田自治会長は、子供の頃は学校からの帰りに近道するためにこの急斜面をよく登ったそうです。ちょっとぞっとする斜面です。斜面をトラバースしながら降りて行った先の「溝野」集落も程よくまとまった小さな集落です。現在、因幡街道(国道29号線)は引野川右岸を通っていますが、旧道や古道は左岸のようです。この集落の中を古因幡街道が通っていたのではないのでしょうか。集落内には薬師堂、集落の外れには大師堂が置かれ村の人々に守られています。

谷公会堂で昼食の後、午後からは「谷川」「引野川」の左岸、因幡古街道と谷集落を歩きます。因幡古街道は集落の山側を通っており、引野川はかつて暴れ川だったことが推測されます。神谷さんも書いていますが、この古街道は集落とともによくぞ残ってくれたと言える奇跡の道です。

(尾留川 朗)

【高島市マキノ町フットパスセミナー訪問】

3月20日(月) 奥播磨から日本で2つしかないカタカナのまち「マキノ町」に移動し、このまちのフットパスを歩かせていただくことになりました。マキノ町は滋賀県高島市にあり、マキノ高原のスキー場やメタセコイアの並木など有名で、チョコレートはよく知られていますね。

実際にマキノを訪れて一番印象深かったことは、マキノというカタカナの名前の通り非常にハイカラな雰囲気なことです。琵琶湖の北西部に位置し、関西と北陸を結ぶ湖上交通の要衝として栄えた地域だけに、深い歴史を備えた都会人好みのハイセンスなまちであることでした。まさにここは近江商人(高島商人)を生み出した関西の奥座敷のハイセンスなまちなのです。

宿泊させていただいた奥琵琶湖マキノグランドパークホテルでは、ちょうどこの日が春分の日であって、早朝に竹生島から出るご来光が湖岸を紅く染め、グランピングと呼ばれる高級パオのシルエットが幻想的な景観を生み出すという、素晴らしい体験をさせていただきました。またお世話をしてくださった「マキノまちづくりネットワークセンター」の高木さんを初めとする幹部の方々には、豪商を感じさせる

雰囲気の方たちで、このまちのまちづくりの中心となって、メタセコイアの並木を作るなどの様々な企画を実施されてきた皆さんです。そして、フットパスもその一環として、観光とは一味違うコースを作り出そうとされています。

今回のコースは、琵琶湖岸やマキノ町の名所、知内川に沿った里山などを歩きました。鮎寿司で有名な皇室御用達の魚治や koti café などしゃれたお店も多く、観光としても多くの資源がありすぎるほどあるところです。福井に繋がる山々は、古い時代のよすがも多く残るところですので、マキノの皆さんの高いセンスでじっくり探していけば、まちの雰囲気をよく捕らえたいフットパスができることと思います。
(神谷 由紀子)



【ショッパー取材】

4月3日(月) ミニコミ誌のショッパー社から取材がありました。「町田市は現在フットパス会長市であるということもあり、フットパスのコースも豊富な町田市で、季節もよいこれからの時季にフットパスやフットパスコースをご紹介できれば」という主旨で、編集長の内澤洋子さんと担当の原真理さんのお2人がきてくださいました。桜がチラホラする小野路をご案内し、小林さんのストーブ小屋にもお邪魔し、フットパスを経験していただきました。
(神谷 由紀子)



新緑の季節に里山散歩

フットパス活動する「みどりのゆび」の神谷さんと尾留川さんと一緒に

春の訪れ、桜の咲き始める頃、里山の散歩が気持ちいい。フットパス活動する「みどりのゆび」の神谷さんと尾留川さんと一緒に、新緑の季節に里山散歩を楽しんだ。



昔から交通の要所だった小野路

小野路は、昔から交通の要所だった。この地域は、昔から交通の要所だった。この地域は、昔から交通の要所だった。



小野路は、昔から交通の要所だった。この地域は、昔から交通の要所だった。この地域は、昔から交通の要所だった。



里山保全活動

4月15日竹林管理

天気:晴 参加者:10名 今年1回目の作業日です。各地でタケノコが不作だとの声を聞きましたが、小野路でも少ないようです。スーパーでは筍の値段は数割ほど高いようで大変貴重なお宝になりました。火をおこして小さいものを焼き筍にして食べました。鈴木さんと神谷さんが用意してくださった豚汁が美味でした。感謝！ (小林 道正)



4月23日竹林管理

天気:晴 参加者:11名 2回目はタケノコがやっと出てきたように思われます。今年は気温が低かったのでしょうか。午後は天気が良かったので、参加された方と「奈良ばい谷戸」まで歩いてみました。(小林 道正)



4月29日竹林管理

天気:晴 参加者:13名 今年3回目は遠いK市からのゲストがありました。作業中、高級食材のキヌガサタケを発見し歓声があがりました。周りをよく見ると2本、3本、一列に並んで10本以上も見つかりました。野外食の後は、付近の自然観察を楽しみました。イチリンソウが水辺の周りに群生していたり、ハナイカダの花が咲いていたり、珍しい植物をたくさん観察できました。毎週毎回変化があります。(小林 道正)



その他フットパス関連

2月28日 日本フットパス協会の企画委員会

今日のメンバーは、黒松内、長井、三里、町田と事務局です。フットパスに協力して下さるお店やボランティアの方に付けていただくロゴが決定しました。たいへん良いものができました。各地のフットパス会員のイベント情報を紹介する新しいホームページを作成中です。(神谷 由紀子)



2月3日 全国大会後援申請

中間市の濱田さんと芳賀さんのお二人とご一緒に、地域活性化センターの椎川理事長へ後援申請のご挨拶に行ってきました。今年は環境省、総務省、国交省からも後援をいただける予定です。

中間市のお陰で関係省庁との絆も確かになりました。ほっといい気分でお昼は日本橋の玉の穴子飯を頂きました！

(神谷由紀子)



フットパスガイドマップ既刊4冊

町田市とその周辺地域には、昔ながらの里山風景、雑木林、田畑、古街道、歴史の面影などが随所に残されています。魅力あるフットパスコースを町田市と協働で開発し「多摩丘陵 FootPath1」「多摩丘陵 FootPath2」「まちだフットパスガイドマップ」「まちだフットパスガイドマップ 2」の4冊を刊行しています。町田市内の書店でご購入いただくか、事務局へご連絡ください。



NPO 法人「みどりのゆび」

事務局 : ☎ 042-734-5678 Fax 042-734-8954 Email info-m@midorinoyubi-footpath.jp
ホームページ : <http://www.midorinoyubi-footpath.jp/>
Facebook : <https://www.facebook.com/midorinoyubi.footpath>

NPO法人「みどりのゆび」2017年7~10月フットパス・スケジュール

持ち物:弁当、水筒、雨具、 参加費:会員 1000円 非会員 1500円 (イベントによって変更あり)

●申込締切までに、メールもしくは文書でお申し込みください。交通や屋食の予約など保証できなくなります。

●申し込んでも事務局から何も連絡がない場合には、再度お電話ください。

メール:info-m@midorinoyubi-footpath.jp 電話:042-734-5678 FAX: 042-734-8954

携帯:080-5405-3904(神谷携帯)、090-5582-7137(尾留川携帯)、090-7260-6491(鈴木携帯)

<p>9月2日(土) 【集合】車で乗り合わせて行きます。 (片道5時間) 申込締切:8月15日</p>	<p>『他のまちのフットパスをみてみよう:鬼無里』 【講師:長野市役所鬼無里支所 羽田稔】 【内容】奥裾花溪谷の水芭蕉で有名な鬼無里は山々に囲まれた桃源郷です。「鬼女紅葉伝説」など京の都にゆかりのある数々の伝説があり、都を偲ばせる様々な地名が深い文化とともに残っています。まだ東京では酷暑の9月上旬、鬼無里はもう短い夏の終わり。涼しい風、虫の音、一面の稲穂に実りの秋の気配を感じることができます。癒しの1日いかがですか。</p>
<p>9月23、24(土、日) 【集合】JR 船岡駅 11:30AM 申込締切:7月31日</p>	<p>『他のまちのフットパスをみてみよう:柴田町の曼珠沙華』 【講師:柴田町フットパスサポーターのみなさん】 【内容】柴田町は全国でも有数の桜の名所ですが、6月の紫陽花や秋の菊も楽しめる花と緑のフットパスのある柴田町です。秋は曼珠沙華でも有名です。「曼珠沙華」(まんじゅしゃげ)「天上の花」という意味で、良いことが起こる前触れには赤い花が天からふってくるといういい伝えがあります。13万株を超える曼珠沙華(彼岸花)が咲き誇ります。</p>
<p>10月1日(日) 【集合】車で乗り合わせて行きます。 (片道2時間) 申込締切:9月15日</p>	<p>『他のまちのフットパスをみてみよう:河口浅間フットパス』 【講師:山梨大学教授 大山勲】 【内容】富士五湖のあたりは次第に連結してきています、今回は、河口浅間地区のフットパスを山梨大学の大山先生のご案内で歩きます。以下大山教授より: 河口浅間地区の方たちにとっての拠り所は河口浅間(あさま)神社です。この神社は北口本宮浅間(せんげん)神社よりも“富士山を鎮める神社”としては古いと言われています。864(貞観6)年(3.11震災の1000年前の貞観の連動地震・樹海を作った貞観の噴火)の翌年に建立されました。江戸時代に富士講が盛んになって北口本宮が主流になる前まで、河口浅間地区には御師が多数ありました。河口浅間の方たちには御師の心のようなものが、今でも流れているようで魅力的です。</p>
<p>10月7、8(土、日) 【集合】車で乗り合わせて行きます。 (片道4時間) 申込締切:9月15日</p>	<p>『他のまちのフットパスをみてみよう:長野県筑北村』 【講師:筑北村役場 宇都章吾:赤松林と松茸採り】 【内容】5月の筑北フットパスは大好評でした。とにかく人々が優しく、あちこちで大変なおもてなしを受けました。今回はさらに松茸!の魅力が追加です。 前回はJR篠ノ井線冠着(かむりき)駅でネコ駅長によるお出迎えの後、「そば処さかい」にて地元産のそば粉を使った手打ち蕎麦を堪能し、里山と谷間に広がる美しい水田の織りなす新緑が見所のコースを散策(3.5km程)。→夕食は地元の方の料理でおもてなしというような暖かなステイでした。</p>
<p>10月15日(日) 【集合】小田急線伊勢原駅 10:00 申込締切:9月30日</p>	<p>『フットパス専門家講座:町田近郊フットパス:伊勢原』 【講師:田邊博仁:伊勢原の市街地と緑を巡るフットパス】 【内容】伊勢原市は丹沢山地の南東端に位置し、山地・丘陵・台地・平地が複雑に絡み合う変化に富んだ地形です。雑木林や田畑で囲まれた里地や丹沢山地から続く伊勢原丘陵地を巡る自然フットパスと伊勢原ゆかりの太田道灌などの寺社を巡る歴史フットパスです。「伊勢原道灌祭り」は10月14、15日に行われますので、祭りも覗いてみます。</p>
<p>10月17日(火) 【集合】別所バス停 10:00AM 申込締切:10月10日</p>	<p>『小野路交流館行事:小野路』 【講師:田邊博仁:秋の小野路の里山めぐり】 【会費】1500円 保険・昼食代込 【内容】毎年恒例の小野路里山交流館行事の秋の小野路の里山めぐりです。昼食は小野路里山交流館です。(10時~15時)</p>

<p>10月28(土) 【集合】JR 青梅線小作駅 10:20AM (10:31 発の秋川駅行きバスに乗ります)【昼食】弁当 申込締切:9月25日</p>	<p>『フットパス専門家講座：羽村の秋草を訪ねて』 【講師：山田隆彦：スミシ博士の秋草探訪-】 【内容】羽村にある草花丘陵に秋の草花を訪ねます。オクモジハグマ、シラネセンキュウや咲きだしたカンアオイの花を訪ねます。コースは緩やかなアップダウンがありますが、一般向けの山道です。手洗いは、羽村博物館まで途中にありません。羽村博物館には1時30分～2時ごろに到着予定です。昼食は浅間岳でいただきます。 【コース】小作駅西口→(バス)→恵明学院前---林道---満地峠---浅間岳---羽村博物館---多摩川右岸---羽村駅</p>
<p>11月11、12日(土、日) 早割の航空機を取るために参加希望の方はとりあえず申込締切7月31日まで 希望者には中間市だけでなく周辺を2泊3日などで周遊することも考えています</p>	<p>他のまちのフットパスをみてみよう：福岡県中間市 【日本フットパス協会総会：全国フットパスの集い2017in 中間】 【内容】コースは全4コース 「土手の内コース」2015年夏に世界遺産となった「遠賀川水源地ポンプ室」をめぐるコースです。1910年から現在まで現役で稼働しているポンプ室は赤レンガのお洒落な建物で一見の価値があります。黒田藩主・黒田長政の命で造られはじめた遠賀堀川や自然豊かな竹林も通ります。 「上底井野コース」中間市の中心を流れる遠賀川西側の自然や文化財が多く残る地域です。緑豊かな垣生公園は桜やあじさいの名所、月瀬八幡宮は7月に咲くかのこゆりが有名です。小山が多く景色の良い底井野を菅原道真公や黒田藩主が旅の疲れを癒しに訪れていました。古い煉瓦や底井野の往時をしのばせる家並みを楽しみ、田園地帯では四季折々の農作の様子を見てみましょう。</p>

NPO法人「みどりのゆび」2017年7～10月緑地管理スケジュール

★持ち物: 弁当、水筒、軍手、長靴(必要なら)。電話 042-734-5678 携帯 080-5405-3904	
<p>9/10(日) 10/14(土) 稲刈り 10/22(日) 11月、12月 12/16(土) 餅つき</p>	<p>10:00～12:00 雑木林の手入れ 恵泉 10:00～12:00 雑木林の手入れ 10:00～12:00 雑木林、竹林の手入れ 恵泉 一本杉公園で餅つき</p>

★新企画「里山の秘密基地づくり～みどりの親子探検隊」2017年スケジュール

★雨天の場合のなど必ず事務局に確かめてからお出かけください。電話 042-734-5678 小林 090-4623-2878

<p>『里山の秘密基地づくり～みどりの親子探検隊～』 【アウトドア教育の専門家小林道正氏を理事に迎えて今年から子供向けプログラムを開始しました。】 【内容】「みどりのゆび」が町田市より委託管理している小野路の宿緑地には、コナラやクヌギの林が多く残され、湧き出る水が小さな池を作り、いろいろな動植物を観察することができます。親子で自然体験を楽しみます。小学生のお子さんのいらっしゃる方ならどなたでも大歓迎です。参加するには事前の予約が必要で、子供だけの参加はできません。 【集合】別所バス停 10:00 【持ち物】弁当、水筒、雨具 【服装】長袖、長ズボン 【参加費】子供一人 500円</p>	
<p>8/5(土) 10/14(土) 12/9(土)</p>	<p>夏の里山体験(昆虫観察と自由研究)、畑の草取り(里山オリンピック) 秋の里山体験(木の実観察と里山のクラフト)、芋掘り収穫活動(里山オリンピック) 冬の里山体験(野鳥観察とハイキング)、落ち葉集めと焼き芋(里山オリンピック)</p>

管理作業の場所 案内図

